

Principal Correspondence

臨界期後の教育

子どもの発達段階を理解するうえで

「9歳の壁」という概念があることはご存知かと思います（拙著『子どもの能力は9歳までに決まる』サンマーク出版）。10歳になると（性格は変わりませんが）、子どもはがらりと変わります。できることも多くなり、大人の思考で推理することができるようになり、論理的になり、想像力は急に発達してきます。

幼児の頃は「昨日」「今日」「明日」ぐらいの、時間感覚で生きていますが、9歳を過ぎると「再来月のマラソン大会は頑張ろう」とか「将来〇〇になりたいからこの勉強を頑張ろう」というような具体的な目標を立てて計画できるようになってきます。

だいたい小学4年生ぐらいが境目です

非行少年といわれる問題を抱える子ども達は、その推理能力が失われている子が多いと言います（『ケーキの切れない非行少年たち』宮口幸治著・新潮新書）。

9歳までは多様な体験を通して様々な脳をフルに使い、直接体験、実体験で刺激を与えていくことが大切です。



では「10歳を超える子どもたち」はどんな教育をしていけばよいのでしょうか？

① 得意才能の強化

10歳ぐらいになると好きなこと、得意なことが分かり始めます。好きな事得意な事を生かした、将来就きたい職業が途中で変わっていくのは構いません。

とりあえず文学でも、サッカーでも、ダンスでも、数学でも、理科実験でも、やりたいことを集中して始めるときです。

習い事で学ぶ場合、習い始めたら1年はやり続けること（真に面白さがわかる前に、ちょっと嫌だからといってやめてしまっては、どんな才能も伸びない）。

また、幼児と違って楽しさばかりでなく、しっかりとした躰とルールのある教室が良いと思います。



② リーダーシップを含むコミュニケーション能力の強化

まず異年齢の小さい子の面倒を見る経験が何より大事。現代社会ではその環境が日に日になくなりつつあり、それによってコミュニケーション能力が育たないまま大きくなってしまいます。

年上の子が、年下の子を率いてチームで目標を達成すること（当校ではハウス活動）がコミュニケーション能力の発達にはとても重要です（脳はそのような進化のために期待されている環境に置かれるように設計されているのです『EEE (Evolutionary Expected Environment)』）。

リーダーになれば苦勞しながら成長します。リーダーに選ばれなかった子もリーダーの様子を観察し、学習してフォロワーとして成長します。実例として、小学校ではフォロワーで目立たなかった児童が中高で立派なリーダーになった子も多いのです。

③ 創造的な思考

課題発見，目標設定，課題解決のプロセスを学ぶことです（OECD の提唱する PISA 型学習ともいわれる）。

自分で課題を発見するには感性が極めて重要です。幼少期から文学に触れ，アートに力を入れ，音楽に触れ，演劇を学び，自然体験を通して感性を養ってきたことが生涯役に立ちます。

当校では 4 年生での研究・ポスター型発表，5 年生でのグループ研究，6 年生での卒業研究を通して力をつけていきます。自分の課題を仲間に共有してもらうには表現力も必要ですし，卒業するとパソコンのスキルもかなりアドバンテージになります。

④ 多様な価値の理解

外国語の理解，外国人とのコミュニケーションはもちろんのこと，国連の提唱するグローバルな課題 SDGs を小学校から取り上げ，多様な価値観に触れて問題意識を世界に広げていきます。

リリーベール小学校の子ども達が，日本や世界の各分野を切り開いて行って欲しいと私達は，真剣に考えています。



Principal Correspondence

コロナ禍でも夏の体験を！

夏は子どもの季節！ 普段ではできない**自然体験**や**文化体験**をする良いチャンスです。とはいえこのコロナ禍で、夏休みは減り、自由な活動もままならないのですが、できる事を考え、知恵を絞って開催していきたいと思います。

夏に経験したいこと！

まず文化体験

読書，図書館，美術館，博物館に行くこと。
自由研究，コンサート，映画鑑賞，夏は子ども向きのイベントも盛りだくさんです。
学童では文化的活動を積極的に取り入れていきます。



次に自然体験

たとえば海水浴，虫取り，魚釣り，キャンプや満天の星を見る体験・・・。

残念ながらリリーの全学童でバス移動を伴うイベントは出来ませんが，代わりに，園内で出来る体験活動を最大限充実させて参ります。

こうした体験活動は「ワーっきれいだ!じわっ，ドキドキ，スゴイ，不思議だな？」などの**感動**をよび，**記憶力を増進**させ，**豊かな感情を育て**，何より**好奇心を育んで**くれます。



好奇心は少年少女期のみに育まれるものです。好奇心は，今後の人生に大事な創造性の源ともなります。豊かな少年少女期を過ごすということは，体験が豊富なことなのです。

学童クラブでは，この夏できる限りの**体験活動**をつめ込んで待っています。もちろんこうした体験はご家庭でもできますが，ひとつ異なるのはクラブには同年齢・異年齢の友だちがいることです。友との交流や刺激は，経験を豊かにするばかりでなく**人間性知能=H Q**を育みます。『お互いの気持ちが読めること』『自分の感情をコントロールできること』『将来の見通しを持ってルールや目的を共有して友だちと遊べる能力』は，この時期にこそ育てたい知能です。

夏こそ子どもの季節・・・子どもがぐっとひとまわり大きくなる季節。

それは，9月にたくさんの子どもたちの靴が小さくなって，買い換えることを見てもわかります。今でしか育めないものを育んで参りましょう。